

第44回ぴあフィルムフェスティバル2022



会 期：2022年9月10日(土)～25日(日) オンライン配信は10月31日(月)まで
 会 場：国立映画アーカイブ
 主 催：(一社)PFF/独国立映画アーカイブ/(公財)川喜多記念映画文化財団/(公財)ユニジャパン
 後 援：(特非)映像産業振興機構/(協組)日本映画監督協会
 対 象：一般
 公式サイト URL：https://pff.jp/44th/

総来場者数(参加数)：7,771人/前年比116%
 (リアル参加：4,590人/前年比124%、オンライン視聴：3,181人*過去最高/前年比107%)
 プレス社数：新聞社：11/通信社：1/雑誌：3/WEB：230/ラジオ：1/テレビ：2

■開催内容

●PFFアワード2022

全国から応募された自主映画520本の中から選ばれた入選作品16本を各2回ずつ上映、さらに映画祭初日から映画祭終了後の10月31日までオンライン配信も実施。映画祭の表彰式で、5名の最終審査員が選出したグランプリ『J005311』ほか各賞を発表、7作品が受賞した。最終審査員：菊地健雄(映画監督)、玉川奈々福(浪曲師)、とよた真帆(俳優)、三島有紀子(映画監督)、光石研(俳優)



国立映画アーカイブのロビー

●ようこそ、はじめてのパズリーニ体験へ

映画監督、詩人、小説家、劇作家、画家など、多彩な顔を持つイタリアの巨匠ピエール・パオロ・パズリーニの生誕100年を記念し、長編15本と短編3本を大特集。イタリア文化会館の協力を得て、『イタリア式奇想曲』『愛と怒り』『アフリカのオレスティアのための覚書』の長編3本と短編3本の日本未公開作品も上映した。



PFFアワード受賞監督と審査員

●青山真治監督特集

2022年3月に57歳で急逝した青山真治監督の初期作品『WiLd LiFe』『月の砂漠』『私立探偵濱マイク 名前の無い森』『赤ずきん』『路地へ 中上健次の残したフィルム』を上映し、監督夫人のとよた真帆、俳優の豊原功補、斉藤洋一郎をはじめとする青山組常連のスタッフがトークショーで貴重な体験談を披露。青山監督の凄さを再発見する企画となった。

●PFFスペシャル映画講座

「人生を変えた映画がある」というテーマで、『海辺の彼女たち』の藤元明緒監督と配給会社gnome代表の村田悦子が『動くな、死ぬ、甦れ!』について語る講座と、『PLAN75』の早川千絵監督、プロデューサーの水野詠子、ジェイソン・グレイが「日本に少ない、短編映画を長編にする試み」について語る講座を実施。



とよた真帆氏のトーク

●第26回PFFスカラシップ作品『すべての夜を思いだす』完成披露

『私たちの家』で2017年PFFアワードグランプリを受賞した、清原性監督による長編劇場デビュー作『すべての夜を思いだす』をお披露目上映。清原性監督のほか、出演の大場みなみ、見上愛、内田紅甘がトークショーを行った。



「すべての夜を思いだす」の清原監督と出演者

●映画音楽シリーズ「ブラック&ブラック」

2019年から続く、ピーター・バラカンの解説で楽しむ音楽映画シリーズ第7弾。今年は日本未公開の『ザ・ビッグ・ビート：ファッツ・ドミノとロックンロールの誕生』を、トーク付きで上映した。



ピーター・バラカン氏のトーク

■2022年度の新規取り組みとその成果・特色など

2020年以降、メイン企画である自主映画コンペティション「PFFアワード」のオンライン配信を強化。今年もU-NEXTとDOKUSO映画館で配信を行った。総視聴者数は3,181名となり、過去最高を記録することができた。

特集「ようこそ、はじめてのパズリーニ体験へ」では、往年の名作を若い世代にアピールすべくプロモーションを実施。結果、年配の映画ファンに加えて若者も多く来場して、全16プログラム中8プログラムが完売、チケットの平均売行率も92%に達した。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数・成果

- ①「第35回東京国際映画祭」との提携企画として、「PFFアワード2022」グランプリ作品『J005311』を上映し、監督との質疑応答を実施した。
- ②スカパーJSAT(株)が運営する「スカパー!番組配信」にて、2022年12月～2023年1月にグランプリ受賞作『J005311』をはじめとする「PFFアワード2022」入選作15本を配信した。